# 経済における新しい倫理要求

令和５年１１月１５日
黒田インターナショナルコンサルティング
黒田　毅

経済が利益主義において、その自由経済システムとともに、自己を有することは世界の誤りを生むのである。西洋における企業の社会性と倫理性は、必ず自己に追随するべきである。

これらは企業が社会的責任を求めることにおいて、解決できることなのである。これらは社会市民としての企業の新しい形なのである。

経済は利益主義に走ることは、現実において競争という現実とともに、必要悪かもしれない。しかし企業が倫理的道徳的自己を求めることは可能なのである。

これらは社会との共生という新しいスタンスを企業が求めることができるのである。これらは社会の進歩への参加への正しいスタンスなのである。

企業の健全性は、正しい自己構築であることは真実なのである。これらは利益主義という現実から社会との共生という、新しい価値観を提案するものである。

留意すべきは、西洋社会における企業の社会的責任と参加という現実であり、利益主義という中国などにおける経済の非道徳性は、完全な比較を与えるものである。

これらは社会との協力が新たな可能性の実現を与えることは必ずできるのである。これらは日本的価値観であり、日本の風土に適するものかもしれない。

これらは、また、経世済民という経済の言葉のルーツと渋沢栄一の思想との合致するものである。

これらは資本主義が富における競争という現実を有することに対して、新しい資本主義のあり方を提案できるものである。

これらは殺伐として競争から、共生と調和への転換は、企業の行動とともに、社会を変えることは必ずできるのである。